



北野の風

岡崎市立北野小学校 令和3年度 学校通信 No.5 【10月19日】

好奇心をポケットに入れた探究者でありたい

私の「なんちゃってカブトムシ研究」

北野小学校長 丹羽 郁人



大人自身が探究者になること。学ぶことの喜びを忘れず、今でも好奇心や探究心を持ち続けていきたい。

小さいころから虫は苦手である。というか、嫌いである。ちよつとした茂みに入ると、体中が痒くなる。

息子がまだ幼稚園児のころ、神社のセミ取りに連れていった。平気でセミをつかみ取る息子をしり目に、私はいつも尻ごみをした。(笑) いまだにセミを触れないし、触りたいとも思わない……。しかし、義父が、畑にいたというカブトムシの幼虫なるものを持ってきてくれた時から、息子と共に、私の飼育活動が始まった。

今、カブトムシを観察していると、実に面白い。まず、びっくりしたのはカブトムシが「鳴く」ことである。「鳴く」といっても多くの動物がするように口で鳴くわけではなく、腹を動かすことで羽根をこすり合わせて音を出すのである。また、一つの餌を、お互い仲良く食べればいいのに、やたらめつたらけんかをするのだ。けんかの弱い、角の小さい者は、いろいろ工夫して餌にありつこうとする。その情景が実に興味深い……。

カブトムシを何年も飼うと、疑問が次々に湧いてきた。「幼虫は何を食べているのか？ どういう土の時に大きくなるのか？」「幼虫は何か所に集まって生活しているが、集まるのはなぜか？」「お互いに邪魔せずに、蛹室（サナギの部屋）をつくる。なぜ邪魔されずに蛹室を作るのか？」などである。

そして、最大の「？」は、「なぜ、カブトムシが我が家に飛んでくるのか？」である。

家は住宅地にあり、まわりに山や森はない。特に街灯、照明をつけているわけではない。餌も、いわゆる「昆虫ゼリー」であり、ぶんぶん匂うものでもない。では、なぜ我が家にカブトムシが数匹も飛んでくるのか？ 初めは、飼育していたカブトムシが逃げ出したかと思っていた。だが、明らかに見たこともない（すなわち、色の異なる）カブトムシが連日、我が家をノックする。

飼育中のカブトムシが呼んでいるのと同じか思えないのである。では、どういう手段で呼んでいるのか？ どういう方法で仲間がいることを知りえるのか？ 音か、匂いか、振動か、超音波か？

夜遅くまで観察し続けた。カブトムシの関係する本を、何冊も読みあさった。それでもまだまだ「？」が多い。それがおもしろい。探究が続くことが、実に楽しい。そして、この楽しさを子供たちにも感じてほしいのである。

フアーブルは、泥まみれになりながら、昆虫を追いかけた。エジソンは、何度も何度も、何度も失敗をした。

「驚きと感動の種をまき、探究心の火をつける学び」の実現へ。そのためにはまず、我々が、「驚きや感動」をもつ探究者であり続けること。それこそがその実現に向けた第一歩ではあるまいか。

今年もコロナ禍のため、部活動の大会、コンクールが大幅に変更されました。そんな中でも、九月はじめの水泳大会、キッズデイズ中の球技大会、十月半ばの音楽部の校内コンサートで、北野つ子は練習の成果を出し切るべく、全力で取り組むことができました。各部の頑張りを紹介します。

水泳部

限られた時間

六年 大久保 晃介



水泳の練習は自分との戦いだと思つた。コロナでプールに入れる時間は少なかつたけれど、冬の間の陸上トレーニングや、先生や友達に教えてもらったアドバイスで、なんとか少しでもいいタイムを出せるようにと思つた。一人で泳ぎにも何回も行った。みんなに迷惑をかけたくなかつたから。大会の当日、緊張したけど、みんなの声援のおかげで泳ぎ切れた。今回、仲間の一人一人が限界と向き合い、最後まで泳ぎ切つて笑顔で終われたことをとてもうれしく思う。水泳部

の活動を通して、仲間のがんばる姿からしげきと大きな力をもらった。来年からは中学生になる。今度はほくも誰かに力を与えられる人になりたい、中学でもいっそうがんばりたいと思う。



これまでの努力

六年 関口 美虹

私は、大会までの間たくさん練習をしてきました。夏には、プールでは、陸上トレーニングで一生懸命走り込みをしました。迎えた大会当日。私はわくわくしていました。努力してきた自分を信じようとと思つたからです。やっと自分の番。私は百メートルを楽しく泳ぐことができました。でも、自分のベストタイムをこえることはできませんでした。悔しくて涙が出ました。

数日後、大会の結果が出ました。結果は、三位。言葉にならないくらいうれしかったです。これから、努力を惜しまず、頑張っていきたいと思えます。



ソフトボール部

悔いのない戦い

六年 友利 大樹

今年はコロナであまり練習できなかった。だが、とてもワクワクし、ドキドキした最後の試合が始まった。



北野小対岩津小。先に一点取られた。二回の表の攻撃で二点を取った。点が取れる。これなら勝てる。とみんな思つた。しかし、相手もそう甘くはなかつた。点を取り返され、同点になってしまった。三回の表は、クリーンナップから始まり、

下位打線にもつながって一点取つてきた。そして、満塁で自分の打席が回ってきた。点差を広げるチャンス。狙いをしぼって打った。この回、合計で三点を取ることができた。チームが盛り上がり、勝つてしまった。しかし、逆転されてしまった。試合は負けてしまったけど、悔いなく終わった。キャプテンとして、チームのみんなに伝えたい。「ありがとう。最高の仲間。」

バレー部

悔しかった最後の球技大会

六年 竹内 雄星

六年生最後の球技大会でぼくはとても悔しい思いをしました。コロナの関係で練習時間があまりとれませんでした。短い時間を大切に練習に取り組んできました。失敗を責めず、励ましながら練習に臨みました。自主練習も積極的に行い、アタックの打ち方やサーブレシーブの精度を上げていくことができました。

大会当日どんな試合になるか不安に思い、緊張が増しました。みんなも緊張して声が出ずに思うようにいかず、なかなか点が取れませんでした。それでもあきらめず一度は追いつくことができましたが、結果は一セットも取れず終わってしまいました。練習の成果が出せず悔しくて涙が出ました。この悔しさを忘れず、どんなことにも挑戦していきたいです。



最高の仲間と最高のプレーを

六年 濱 來実

私たちバレー部は、「いつも笑顔



で当たり前のことや力をチームを目標にして、チームの絆を深めてきました。大会に向けて、特に力を入れて練習したことは六人でやるシート練習です。フェイントやワンタッチのボールを落とさないために、みんなで声をかけ合うことを常に意識しました。

本番では、始まる前に「下を向かないで笑顔でやりきろう」と円陣を組みました。試合では点が入った時には笑顔で思いつき喜び、点を取られた時にはみんなで「一本で切るよ。」と声をかけ、励まし合いました。そのおかげで、焦らずプレーすることができました。

一緒に楽しみ、一緒に悲しみ、励まし合える最高の仲間と最高の思い出を作ることができました。中学校に行ってもバレーを続け、キャプテンを目指して頑張りたいです。

バスケット部

汗と涙のゲーム

六年 田原 悠宇

四年生から始めた部活動。ディフェンスの姿勢や位置、正確なパスや

シュートができるよう、心がけて練習してきました。時には、走り込みをたくさんして厳しい練習もありましたが、おたがいに声をかけ合って、乗り越えてきました。



球技大会初戦、勝ちたくて、みんなが必死にボールをつなぎ、ゴールを目指しました。最後の最後まで仲間を信じて、全力を出し切りました。でも、結果は負けてしまいました。悔しくて、仲間とたくさん涙を流しました。

勝つことはできませんでしたが、このメンバーで最後まで全力で戦えたこと、楽しい気持ちやくやしい気持ちを分かり合えたことが最高の思い出になりました。

つかみ取った優勝

六年 山田 蒼依

わたしは女子バスケットボール部に入ってチームワークを学びました。わたしたちの代は、部活をあまりできなかったの、毎週体育館を借り、母たちに協力してもらって練習をしました。その練習では教えてく

れる人がいなかったため、自分たちで練習メニューを考えました。みんなで話し合い、練習して高め合ったことで大きな自信になりました。試合でも、仲間がシュートを入れたら「ナイシュ！」ミスをしたら「どんまい」と声をかけ合っ



てがんばりました。さらにみんなが「ルーズボールを絶対に取る」という気持ちを持ちました。だから優勝できたと思います。大好きなみんなと勝って、とてもうれしかったです。

音楽部

自信のついた演そう会

六年 畠山 莉緒

新型コロナウイルスによって、運動会や学芸会といった大きな行事が変こうになったえいきょうで、私たち音楽部の演そうを聞いてもらう機会が減ってしまいました。そんな中でも、校内で行う演そう会に向

けて、パート練習や先生のレッスンを受けるなど、こつこつ練習に励んできました。演そう会ではオブラディ・オブラダという曲でソロを演そうしました。ソロを吹くと決まったときから、かっこよく吹けるようにするために何度も練習しました。本番では堂々と吹くことができ、中学校への自信につながりました。

みんなで演そうした三年間は、とても楽しくて私の宝物です。この思い出を胸に、中学校でもがんばります。



部活動表彰の記録

水泳大会北ブロック

- 六年百メートル自由形 第二位 川原井 翔
- 六年百メートル自由形 第三位 関口 美虹
- 男子二百メートルリレー 第三位 太田・川久保 本郷・川原井

球技大会北ブロック

優勝 女子バスケットボール部



北野小の五年生に代々受け継がれている種もみが、今年も金色に光る稲穂となり、秋空の下、収穫をすることができました。児童にご指導・ご協力をいただきました地域の皆様へ感謝します。

五年 定石 結

稲刈り体験をする前は、稲を一束ずつ刈るのはかん単だと思っていました。でも、実さいにやっていると、とても時間がかかって大変だということが分かりました。



この体験をするまでも、もみまきや田植え、田んぼの管理などをする必要があり、お米を作る農家の人はこんなに大変なのに、おいしいお米を作り続けてくれてすごいのと思いました。これからは、お米を作ってくれる人の気持ちを考えて、お米を味わって食べようと思います。

夏休み自由研究 表彰の記録

理科の部

「セミの羽かのしゅんかん」

三年 尾崎 志門

「ソーラーパワーをつかまえる Part2」

四年 日下部 創

「び生物をおさえる実験」

五年 岩瀬 拓海

「色と温度の関係」

六年 布藤 綾人

社会科の部

「大地しんにそなえる大切さ」

三年 濱谷 修羽

「岡崎空襲の記憶」

六年 鈴木 啓斗

「岡崎ゆかりの家族を支えた

三河武士」

六年 日下部 空



行事予定

10月

二十三日(土) 運動会(予備日 二十四日)
二十五日(月) 運動会代休
二十六日(火) クラブ
二十八日(木) 三年社会見学

11月

四日(木) 山の学習
五日(金) 二年防犯教室
十一日(木) きらきら読み聞かせ(十日)
就学時健康診断・入学説明会
岡崎のハーモニ
十三日(土) 委員会
十五日(月) 委員会
十六日(火) 駆け足週間(二十九日)
十七日(水) 三年認知症サポーター養成講座
十八日(木) 修学旅行 奈良京都方面(十九日)
二十二日(月) クラブ

12月

一日(水) 持久走大会(予備日 二日)
六日(月) 委員会
学校評議委員会
個別懇談会(九日)
資源回収(予備日 十二日)
きらきら読み聞かせ(十六日)
大掃除
岡崎市地域総合防災訓練(北野学区)
クラブ
給食終了
二十三日(木) 二期終業式
守るんデー・学区美化活動
二十四日(金) 冬休み(一月六日)